【02-A1-001】　学年全体で家庭学習の習慣づくりに取り組んだ事例（中学校２年生）

家庭学習の習慣づくりの取組と指導事例

キーワード：家庭学習ノートの活用と指導　家庭学習－習慣づくり

この事例解説では、家庭学習ノートを活用して家庭学習の習慣づくりの取り組みに焦点をあててまとめました。

実践の概要

N 中学校の２学年の生徒たちは、中学校入学後１年が経過したが、家庭学習の習慣を身につけることが大きな課題となっていた。

そこで、学年の先生方は、この生徒たちに家庭学習ノート（ノート名『ステップ』）を活用した家庭学習の習慣づくりに学年全体で取り組むことにした。

各教科の授業で出題される課題（宿題）とは別に、学年の生徒全員が月曜日～金曜日に必ず家庭学習ノートとして取り組む課題の内容を教師側から提示することにした。

具体的な取組として、月曜日～金曜日に１日に１教科ずつ、生徒が家庭で毎日継続可能な短時間の学習時間で取り組める量を課題内容として提示することにした。

もちろん、この提示した共通の課題以外であっても家庭学習ノートに自主的に取り組んで構わないことにした。

また、土曜日と日曜日の分の課題の提示はしないこととし、自主的な取組とした。

生徒たちは、提示された課題に最低限取り組んで、翌日の朝に家庭学習ノートを学級担任に提出することとした。

この家庭学習ノートを活用した家庭学習の習慣づくりの取組期間を約１ヶ月半（７週間）と設定し、途中で見直しの必要な部分が出てきた場合には取組の手直しをしながら、学年全体で取り組んでいくことを確認してスタートした。

対応の概要

1　学年全体と関係教職員による対応

他学年所属の教科担任の協力も得て、生徒の家庭学習の習慣づくりを、学年会全体と関係する教職員が協力し合ってすすめることにし、次のことを、学年会で確認した。

① 当面、国語、社会、数学、理科、英語の教科担任に協力を求め、各教科の授業から出される課題（宿題）とは別に、生徒が１日１５分ぐらいで取り組める量で、教科書等の視写を中心に生かして取り組める課題を作成してもらう。

② 担任は毎日の生活記録ノートに目を通すので、朝に提出された生徒の家庭学習ノートには、副担任が目を通すように役割分担する。

2　自主的な家庭学習の取組

月曜日～金曜日の家庭学習ノートは、教師側から提示した課題に最低限取り組ませることでスタートした。

しかし、提示された課題以外の他の自主的な家庭学習の取組はもちろん家庭学習ノートに取り組んでよいことにした。

このような自主的な取組を行った生徒に対しても、認めたり、ほめたり励ますことを忘れずに意識して声をかけるようにした。

3　家庭学習の方法を身に付ける取組

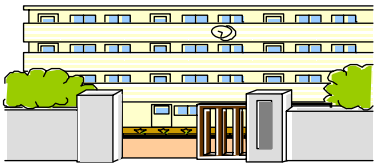
提示された課題への取組がなされない生徒に対しては、翌日の給食後の休み時間に家庭学習ノートに取り組むようにさせた。

その際、担任や学習係の生徒などが学級を超えて一緒になり、学習方法を教えながら手助けをしてあげることにした。

4　生徒の係活動を生かした取組

毎日の家庭学習ノートの課題内容の確認は、その日の帰りの短学活に行うことにした。学級の学習係の生徒が、帰りの短学活前に教科担任が作成した課題やその指示を聞いて伝えることにした。

また、朝に担任に提出された生徒の家庭学習ノートを集めたり、帰りの会に生徒に戻したりするのも学級の学習係の生徒の当番活動として行うことにした。



家庭学習の習慣づくりの取組
（家庭学習ノートの活用・学年全体で）

学年全体で、家庭学習ノートを活用し家庭学習の習慣づくりに取り組んだ視点、その内容についてまとめてみた。

◆◇学年全体で家庭学習の習慣づくり１◆◇

学年全体での取組にしたのはなぜでしょうか？

－習慣づくりの意識の高揚を図る－

全体で取り組むことにより、生徒たちの日常生活の会話で話題になり、生徒の取り組んでいこうとする意欲や取り組まなければという意識をさらに高めることをねらいとした。

また、生徒の学級での当番活動に組み込んだり、取組の呼びかけを学年朝会で行ったりして習慣づくりの取組を継続させた。

このようにして、学年全体での生徒の取組で、日常的な取組の意識高揚を図ることに努めた。

◆◇学年全体で家庭学習の習慣づくり２◆◇

教科担任に協力を求める際に留意した点はどんなことでしょうか？

－授業の内容と家庭学習の方法に結びつく課題－

学年会から教科担任には、①〔時間〕15分ぐらいで終了する量で、②〔方法〕教科書等を視写すれば課題の取組が終了できる程度で課題の作成をお願いした。

そこで、教科担任からは、授業内容に結びつく予習や復習となる教科書の箇所（表や図、例題、単語等）を視写する指示が初めは多かった。

取組の途中（３週間目ごろ）から、生徒が課題の予想が見当付くようになったので課題の選択ができるようにプリントで示す教科も見られるようになってきた。

◆◇学年全体で家庭学習の習慣づくり３◆◇

習慣づくりの取組期間を設定したのはなぜでしょうか？

－取組を振り返り、働きかけを見直す－

家庭学習ノートを活用し、家庭学習の取組期間を設定し、その期間を振り返り、やれたこと、達成できたことをフィードバックすることで、まわりからも評価され、やれる力、達成できる力があることを実感し、その後の家庭学習の取組に、その力を生かしてほしいと考えた。

実際、この取組期間後は中間テストに向けた期間となるので、生徒たちがテストに向けた家庭学習に、これまでの家庭学習習慣づくりの取組を生かし、さらに継続していけるように働きかけを見直す必要があると考えた。

◆◇家庭学習ノートの活用１◆◇

家庭学習ノートに目を通した副担任はどのような働きかけをしたのでしょうか？

－生徒への多様な働きかけとなるように－

朝に提出された生徒の家庭学習ノートには毎日、副担任が印(しるし)やごく短いコメント、さらにそれに加えてキャラクターのシールなどをつけて、帰りの短学活に学習係を通じて生徒へ戻すことにした。

この副担任の働きかけが、生徒たちにとっては、あの印やコメント、そしてシールがまたほしいからという理由で、家庭学習の意欲づけや継続に結びつく生徒も見受けられるようになった。

また、取組の状況を学級担任や教科担任にも知らせることで、複数の教職員から、がんばりを認めたり、励ましたりする言葉かけが生徒になされるようになった。

◆◇家庭学習ノートの活用２◆◇

家庭学習の習慣づくりに生徒の係活動を関係づけたのはなぜでしょうか？

－取組期間以降の家庭学習につなげる－

学習係の生徒が課題を伝える際に、加えて、その学習の仕方を教科担任から聞いて伝えることにした。学級の生徒たちには、この課題と方法を家庭学習ノートに記入させた。

また、学習係の生徒が課題の取組がなされない生徒に翌日、学習方法を教え、手助けをすることで、生徒同士が学習の仕方を学び合い、お互いに励まし合っていく状況をつくりたいと考えた。このことが、取組期間以降の学年や学級での家庭学習の取組につながるものと考えた。